

在フィンランド日本大使館主催 北極圏実地踏査ミッション（概要報告）

2015 年 6 月 30 日

外務省欧州局西欧課

1. 目的

(1) 短期的目的：産官学一体となった具体的な協力案件の形成

フィンランド、ノルウェー北部及びロシア西端部に跨がるバレンツ地域は、資源開発・インフラ整備などの分野を中心に大きな潜在的可能性を有するものの、具体的な事業展開の可能性が本邦関係者の間で十分に認識、検討されるには至っていない。一方、バレンツ地域側関係者も、資源開発・インフラ整備などの大規模プロジェクトの推進していく上で、高い技術力、資本力を持つ日本が重要なパートナーたり得るとの認識を有するものの、現時点では、日本側関係者との協力関係の構築に向けた能動的な働きかけはほとんど行っていない。そこで、日本側の産官学関係者とバレンツ地域関係者に対し、双方の有する潜在的可能性を適切に認識する機会を提供することにより、具体的な協力案件の形成につなげる。あわせて、我が国がバレンツ地域諸国と協力関係を構築していく上で、フィンランドはそのパートナーとして最適な国であることにつき日本側関係者の認識を深める。

(2) 中長期的目的：対露政策上のレバレッジの創出

ロシアは、日フィンランドの双方にとって、その動向が多方面で影響をもたらす大国であり、かつ北極をめぐる最重要プレーヤーである。地政学上ロシアを挟み込む関係にある我が国と、フィンランドをはじめとするバレンツ地域の北欧諸国が包括的、先進的なパートナーシップを形成し協働することにより、ロシアの北極政策遂行上も依存せざるを得ないような技術（例：海氷監視技術に基づく北極圏におけるナビゲーションシステムの構築）、インフラ等を先行して開発し、右をもって北極をめぐる諸問題における対露政策上のレバレッジとする。

2. 概要

(1)：これまでに計 3 回の視察ミッションを以下の日程で実施。

- ・ 第 1 回：2014 年 6 月 10 日～13 日
- ・ 第 2 回：2015 年 3 月 9 日～13 日
- ・ 第 3 回：2015 年 5 月 25 日～29 日

(2)：フィンランド南部からノルウェー最北端まで縦断する形で（各回の行程概要は別添 1、第 3 回の日程表は別添 2 を参照）、①資源開発、②インフラ整備（北極航路・鉄道敷設）、③北極関連分野の研究開発（海氷観測・航行支援）、④観光・人的交流等の分野での視察及び意見交換を実施。

(3)：プログラムの種類は、以下の三種類に大別される。

①：フィンランド及びバレンツ地域に所在する企業施設（砕氷船・造船所・製材工場・鉱山・LNG 基地）を視察し、現地企業の業容及び技術力等を把握するとともに、日本側参加者

とのマッチングを図る。

②：フィンランド及びバレンツ地域に所在する研究施設（気象庁衛星観測センター、アールト大学砕氷船実験水槽、オウル大学トゥーレ研究所、ラップランド大学、極地研究所等）を視察し、現地研究所の研究内容及び水準を把握するとともに、日本側参加者とのマッチングを図る。

③：経済関連団体、政府及び地方公共団体等の訪問及びセミナー等を通じ、各地域に関し包括的な情報収集を行うとともに、北極関連のキーパーソンとの関係構築を図る（フィンランド首相府での北極戦略ブリーフィング、フィンプロ（日本のJETROに相当）でのセミナー、ラップランド商工会議所主催北極ビジネスフォーラム参加など）。

(4) 全三回ミッションの日本側参加者の所属先は別添3のとおり。

3. 成果

・過去3回のミッションは、①プログラムの完成度が高く、バレンツ地域の全体像の把握に大きく寄与するものであること、②個別の企業ではアポイントの取り付けが容易でない視察が実現したこと、③参加する異業種の企業関係者及び研究者の間での意見交換が有益であるなど、総じて参加者から高い評価を得た。

・日本側参加者は、より個別具体的な情報収集及び今次ミッションで接点を構築したカウンターパートとの関係強化に一樣に高い関心を示しており、日本側参加者のバレンツ地域を通じた北極開発への潜在的可能性への認識を高めることに寄与した。

・1年間で3回という高頻度でのミッション派遣により、フィンランド及びバレンツ地域側カウンターパートに対して、日本側関係者が同地域の開発関連分野における互恵的關係構築の希望及びその裏付けとなる能力を有していることを強く印象づけた。

4. 今後の展開

過去3回のミッションは、日本側参加者のバレンツ地域を通じた北極開発への潜在的可能性への認識を高めることに大きく寄与した。かかる成果を踏まえ、今後の同ミッション実施に際しては、志向する成果を一段階引き上げ、かつより具体化する必要がある。この点につき、現段階では、例えば、①日本企業の売り込みに重点を置いたプログラムを策定する、②（これまでのミッションへの参加者は欧州域内の支店、駐在事務所等に在籍する本邦企業関係者等が中心であったことを受けて）各組織の意思決定機構（各企業の本社及び関連省庁本省関係者を指す）の参加を得て実施することにより、具体的な協力案件の形成を促進するなどの方向性を一案として念頭に置きつつ、検討を深めることとしたい。

(了)

北極圏実地踏査ミッション旅程図

別添1



LNG基地視察(於:ハンメルフェスト)



ケビツァ鉱山視察(フィンランド北部)



フィンランド気象庁北極研究所訪問
(於:ソダンキュラ)

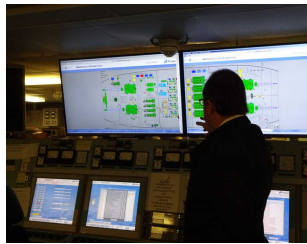
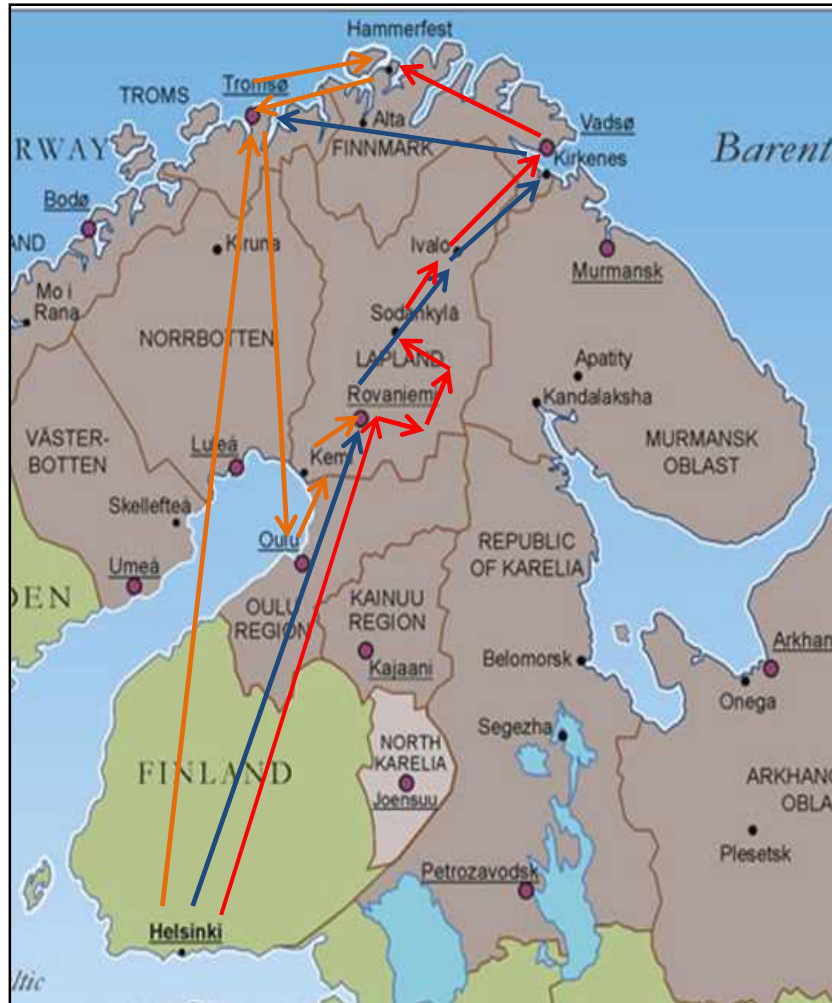


ラップランド大学北極センター訪問
(於:ロヴァニエミ)



オウル市関係者との意見交換

青 第一回行程
 橙 第二回行程
 赤 第三回行程



砕氷船オペレーション視察
(於:ヘルシンキ)



砕氷船艦隊視察(於:ヘルシンキ)



首相府でのブリーフィング(於:ヘルシンキ)

第3回北極圏実地踏査ミッション（日程案）

5月25日（月）

- 09：45 ホテル発
- 10：00 フィンプロでの北極セミナー
- 14：00 Arctech Helsinki Shipyard Oy 社訪問（砕氷船造船所）
- 16：15 Arctia Shipping 社訪問（砕氷船見学、砕氷船運用についてのブリーフ）

5月26日（火）

- 05：30 ホテル発
- 07：35 ヘルシンキ空港発
- 08：50 ロヴァニエミ空港着
- 09：30 ラップランドセミナー・森林庁主催昼食会
- 12：00 ロヴァニエミ発
- 13：30 ケイテレ社ケミヤルヴィ製材工場（Keitele Lappi Timber）視察
- 16：10 サッラ市訪問
- 17：50 サッラ国境通過地点視察
- 21：00 ソダンキュラ着

5月27日（水）

- 08：45 ホテル発
- 09：00 フィンランド気象庁北極研究所
- 11：00 ケヴィツァ鉱山視察
- 15：30 サーミ博物館（Siida）訪問・イナリ市関係者との意見交換
- 20：30 キルケネス着（サーミ博物館から約3時間半）

5月28日（木）

- 08：45 キルケネス商工会議所（Kirkenes Næringsshage）
- 09：30 チュディ・ SHIPPING・カンパニー（Tschudi Shipping Company AS）
- 11：00 キルケネス・ベース（Kirkenesbase AS）（Transportation：Taxi）
- 14：00 Norwegian Barents Secretariat
- 23：00 ハンメルフェスト着

5月29日（金）

- 09：00 スタトイル社LNGプラント（Hammerfest LNG Statoil ASA）
- 12：00 ハンメルフェスト商工会議所／ペトロアークティック
- 14：58 ハンメルフェスト空港発、ヘルシンキ着

（了）

在フィンランド日本大使館主催 北極圏実地踏査ミッション
(参加者所属先一覧)

(民間企業)

NS ユナイテッド海運・大島造船所・川崎汽船・川崎重工業・国際石油開発帝石・
商船三井・新東工業・住友商事・東洋紡・日本経済新聞・日本郵船・東日本旅
客鉄道(JR 東日本)・日立製作所・北海道新聞・丸紅・三井石油開発・三井造船・
三井物産・三菱商事・村田製作所

(大学・研究機関等)

宇宙航空研究開発機構(JAXA)・海洋政策研究財団・寒地土木研究所・工学院大
学・日本学術振興会・日本大学・日本貿易振興機構(JETRO)・防災科学技術研究
所・北海道大学・横浜国立大学・リモートセンシング技術研究センター

全3回のミッションにのべ約50名程度が参加した。

(了)